



2023年12月 4日
第73号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申 東海道線大船駅構内 列車と電化柱が衝突した 第2号 事故に関する緊急申し入れ 第2回団体交渉を行う！その④

【⑤紫＝熱中症対策】

組 合	会 社
当夜も蒸し暑い状況で、多くの方が具合を悪くされた。これが真夏の日中帯であればどうだったのか。対策として考えていることがあれば伺いたい。	現在議論しており、何ができるのかという検討をしている。窓開けや貫通戸の開放が基本。それ以上に何ができるのかという点を検討している。
通電していないと車両は弱いという点が露呈している。今ある車種は難しいが、換気を確保する観点からの換気装置について新車設計への反映を望みたい。	現時点で新車の情報は無いが、要望は受け止める。
乗務員も熱中症対策で苦労したと聞いている。水の持ち合わせがなく水分補給で苦労したという。駆け付けの方に持ってきてもらうのか、交代をするのか、考えていることはあるか。	当日、すべての乗務員とはならなかったが、駆け付けた社員から乗務員に水の手配を行った。支社の対策本部からの指示。引き続き対応を検討していく。
復旧作業にあたる設備社員も含め、ずっと集中しているので考慮をお願いしたい。	お客様の安全を守るためにも、社員の安全も守る必要がある。引き続きやれることをやっていく。
救済の際の水分手配について、グリーン車が連結されている列車の場合、冷蔵庫の飲み物を状況に応じて提供できるよう、Jクリエイションとの間で協定や事後精算などできるようにできないか。	グループ会社との関係もあり必ずできると回答できないが、グループ会社との連携が必要という認識はある。何ができるのかという議論は支社内でも行っている。

【その他＝教育・訓練】

組 合	会 社
「8/5を忘れない」ということで、教育訓練の素材として、起きた事象に対する教訓として使うことが重要ではないか。組合では機外停車した列車なども図で書き出して、把握することで新たに見えるものもある。こういうものを乗務員にも共有し、似たような箇所ですべきなのか、という教育・訓練をしていくことが重要ではないかと考える。	現時点で示せるものはないが、必要な教育訓練は検討していく。
今回の事故を踏まえて、教育・訓練を検討していくということか。	その通り。
停電区間に止まった列車が、バッテリー温存がしっかりとできていたため、運転再開時も復位をしてスムーズに活車できたことも成果だ。車両の補助バッテリーが撤去されている現状で、今後もこのようなシチュエーションを想定し訓練を継続願いたい。	これまでと変わらず、バッテリー温存処置は継続して訓練していく。



組 合	会 社
鉄道の輸送力が大きいだけに、ひとたび止まれば災害級になってしまうという点を、組合としても改めて認識した。会社と認識を合わせて、想定を超える事態がありうるということを、教育訓練していくことの重要性を認識できた事象であった。この事象をいかに教訓化するかが重要である。本日何点か提案や投げかけさせていただいたこともあり、まだ議論中のものも多かったと思うが、そういったものが煮詰まった段階で現場に展開していただきたい。	大きな事象であった。グループ安全計画2028で、深澤社長のメッセージの中にもこの事象の記載がある。5年間は残っていくもので、会社としても重大な事象という認識に違いはない。いままさに検討を進めているものであり、引き続き議論しながら、究極の安全を追求しながら、地域のお客さまに信頼され高めていくよう、より良いものにしていかなければならない認識である。

JR東労組横浜地本は、8月5日発生の大船駅構内電化柱倒壊・衝突事故を、命を奪いかねない重大事故ととらえ、「自分だったら」と当事者意識を持ち、4M4E分析に基づき、事故の原因究明と、お客さま救済の課題について横浜支社と交渉を行いました。交渉は全項目終わりましたが、多くの課題で認識の一致が図れたものの「検討中」のものも多く、今後、現場での検証が必要になります。

私たちは「安全第一」を貫き、安全で安心できる職場の創造と、安全安心な輸送の提供を追求していきます！